

○ 川畑 昌子、豊田 美佐子

(大妻女大・非)

【 目的 】超高齢社会へと急速に向かっている今日、一人一人が自らの力で行うことのできる仕事や趣味などなんらかの生きがいを持つことは重要であり、生きようとする意欲につながるものと考えられる。前報に引き続き高齢者と手芸について考察していくことにする。手芸は、手指の巧緻性に効果があり、会話を楽しみながら比較的狭い場所で出来ることからデイサービスでの楽しみや作業療法の一つとして利用されている。本報は、どのような手芸が高齢者に適しているか、またどのような工夫によって、より効果的に楽しむことができるか、H市のデイサービス活動を通して考察した。

【 方法 】デイサービスで行われている手芸をその製作工程から、手法の分類をおこない、カルチャーセンターや教本などで扱われている手芸の工程と比較し、高齢者のための工夫について検討を試みた。

【 結果および考察 】H市のデイサービスは、機能回復、教養・娯楽、精神の鍛錬を主な内容とし、その一つとして手芸を中心とした生きがい活動を活発に実施している施設であった。カルチャーセンターで扱っている手芸の手法は、編む、織る、縫うなど多種類であり、その組み合わせは複雑である。H市のデイサービスではそのうちの6種類（編む、織る、貼る、刺す、彫る、捏ねる）の手法が用いられており、手芸の範疇は、極めて広範囲であった。高齢者の楽しみ、かつ作業療法、癒しとなるためには、用いる材料や技法の工夫、更に、指導方法、材料費の工夫などの考慮が必要であろう。